

やすらぎ

平成 22 年 2 月 1 日
〔第 130 号〕

発行 御所モラロジー事務所 発行責任者 吉田 実
〒639-2241 奈良県御所市茅原118-1 TEL/FAX 0745-64-3030 E.mail gose-mc@m5.kcn.ne.jp

平成 22 年新年の集い 決意新たに和やかに開催される



1 月 9 日午後 5 時半より、会員の皆様と共に新年を健やかに迎えられ、まずもって感謝しお互いの幸福を祈願して事務所に集まりました。

新年の集いは国歌斉唱し、物故者へ感謝と御礼を込めて黙祷をささげた後、吉田代表世話人の挨拶で今年一年の事務所活動がスタートしました。



講話は、岡川参与からは天皇陛下の国民に対する思い・祈りをお話いただき、細川参与は、今年力のある事務所活動を行うため、事務所活動に

大いに関わっていくことを宣言されました。特に生涯学習セミナーの実行委員長を受け、新人 200 名のセミナーを実施し、若い力を開発していくことを誓われました。そしてセミナーを通じ、我々に活力ある事務所作りに自ら実践されることになりました。我々会員もしっかりサポートし、活力ある事務所作りに貢献できればと身が引き締まる思いでありました。



その後の懇親会ではすき焼きをつつきながら、楽しいひとときを過ごしました。

富士俊隆





(写真で綴る) 女性部新年の集い

新年を迎えた1月24日(日)恒例の女性部新年の集いを御所事務所講堂に於いて、58名の参加で開催されました。

日和にも恵まれ「感謝は知ることから……」をテーマに社会教育講師井上源一様の講話を聞きました。「私は社会教育講師ではなく社会講釈士です。生まれは寅年(年男ですネ)ですがかわいいおとなしい猫です」とユーモアタップリに話し出されました。いろいろの体験を交えて楽しく話して下さいましたが、最後はきちりテーマの「何事も知ることから始まる、そして感謝が生まれる」をまとめて下さいます。

いろいろなところに参加してこそ知らなかったことにも気づき感謝の心がわいてきます。

たとえば 人様の苦勞(姿を見て知る)
多くの物の命を頂いて人間は命を保っている。
良い事も悪いことも原因があって結果が出てくる。
正しい事知っている人は正しいことをする。

生き方感じ方にも各人それぞれの受け止め方が有ります。何事も“あたりまえ”ととると感謝



の心は生まれません。“ありがたい”と感謝の心大切です。私達も自分を知り、反省する心を養い、何事も正しく知って感謝の気持ちで生活していきたいものです。

午後はお楽しみ会。新春にちなんでお琴の調べで心を癒して頂き、お琴に合わせてなつかしい歌を合唱。ビンゴゲーム、可愛いケーキで喫茶、楽しい有意義な一日でした。参加者皆様も大変喜んで下さっていきいきとにこやかに私



達に感謝のうれしいことばかけを……。スタッフ一同感謝いっぱいの日でした。

尚、1月17日(日)スタッフ5名で檀原神宮へセミナー成功と安全の祈願にお参りして来ました。そして、1月19日には御礼参りをします。皆様ご苦労様でした。



富士 秀子



ツアーガイド(2)平城(なら)の都

昭和 45 年に近鉄奈良線が大宮駅から地下線となり油阪駅が姿を消すことになった。

多分、父が健在であったならば、あの学校へは在学しなかっただろう。

昭和 28 年、船橋通り商店街の発展してにぎやかだった、あの坂の上にあった芝辻町の県立商業学校へ、御所中学校から戦後始めてたった 1 人入学して来ていた。

油阪は今も印象に残る。駅舎の頭上 10 メートルにプラットホームが在って、その西手高架の下を、国鉄関西線がくぐるように交差していた。

さて、或る土曜日の昼さがり、油阪駅と反対方向に向かって、先輩もまじえた数人からなる級友とで、北へと下って行った。途中佐保川を渡り、佐保小学校の角地まで来ると、一条通にぶつかる。右手をとれば手貝門へ、左手へ折れて法華寺方向へと一団となって歩いていった。その道路でアメリカ製ブルドーザーを生まれてはじめて知った。当時この近くに進駐軍のセンターが在って、彼らの都合上、道路拡張がおし進められていた。

法華寺をすぎると、静かな草原が視界に広がっていた。今日の日本史の中村寿海先生の授業で習い知った現場に来ていた。佐紀の人達が云っていた「大黒の芝」と棚田嘉十郎の石碑よりも、東西に 100 メートルほど掘り割られた大きな溝があったことしか今に記憶が残っていない。

昨年 11 月の末頃幾度となく訪れる研修の場所で、深まる木の葉の色彩が、冬支度の傾く草原の風景に、突然と歴史書の絵画から抜け出してきたのかのような真新しい楼閣の大極殿が全容の姿を大きく空にうかびたせて、南端にかすむ朱雀門とがまるで一對の雄雌の一体観をかもし出させていた。朱雀門はきっとこの日の来るのを待ちわびていたのかも知れないと。

よみがえる平城宮には、これ以外に朝集殿、朝堂院、内裏、色々の官衛、回廊とか築地塀などがあつたと考え

て見た。そして天平文化の華やかなにほいを想像し、喚起しようとしたが、しかし知りすぎる老人の心の奥底から決して喜ばなかった国民(くにたみ)の絶望と苦悩が組され現実へと戻した。

平城遷都を詔した元明天皇を紹介したい。

元明天皇の即位は、天武天皇の力量によって、その妻持統天皇によっても正嫡としての血統を守るべくわずか 25 歳でなくなられたわが子文武天皇の遺志に従い悲しい立場の引継をしている。

天智天皇は父であり、天武天皇は舅(しゅうと)であり、その皇子草壁皇子は夫である。皇統を守って生きた男まさりの性格の持統天皇は姑でありかつ姉である。彼女は天智天皇の第 4 皇女で阿部皇女といわれた。とにかく天智系統の聡明なしっかりした女性であつたろう。時に 46 歳であつた。

和銅元年 2 月 15 日詔勅を発し遷都を、「都を造ろうということはとても大変なことで、本来ならば今は遷都の時ではないが、皆のものが相談して切々たる申し出があり、幸いにしてよい土地もみつかったので、秋の穫り入れでも済んだら、道路でも造りはじめて、決して人民に苦勞をかけぬよう、また後になって間に合わぬことなどないようにせよ」の意味のことを述べられていた。

この時、和銅元年 2 月、平城遷都を主導した藤原不比等に正二位、右大臣に進み、その妻泉養三千代に橘宿禰の姓が与えられる。



トーマス マツムラ

運営委員会報告

年も改まった 1 月 22 日(日)午後 8 時から運営委員会が開催され、委員 13 人が出席し、吉田代表世話人は「大寒も過ぎましたが、身体には気をつけてください。山田幸雄さんが入院されていまして、事務所から御見舞いをしました」と挨拶しました。

報告事項

1. 青年クラブは 1 月 13 日(水) 10 名で新年会を行いました。また、なら genki プロジェクト(奈良県青年持ち回り企画)は、4 月 18 日(日)午後から旧御所東高校体育館で行います。内容は、『体力測定交流会』。予算は、機器使用料、飲料水等が必要で、具体的に検討中。

審議事項

1. 平成 22 年度行事計画について審議し、運営委員会...毎月 22 日、世話人会議...毎月 29 日、本部主催モラロジー生涯学習セミナー...9 月 16 日(木) 17 日(金)、維持員研修会...5 月 15 日(土) 16 日(日)などを決定しました。
2. 平成 22 年度の事務所役割について吉田代表世話人は、役職の改選期に当たっていますが、一部変更はあるが、基本的にはそのまま続けたいと意向表明しました。